

焼却工場の再エネを活用した「はまっこ電気」による 走行時の CO₂ 排出量“実質ゼロ”の EV バスが運行を開始します

京急グループの川崎鶴見臨港バス株式会社（取締役社長 野村 正人、以下「臨港バス」）は、鶴見営業所に導入した EV バスの動力となる電気に横浜市内焼却工場の再エネ（バイオマス）を活用した横浜市内事業者向けの電気メニュー「はまっこ電気」を利用し、横浜市内のバス路線で初めて、走行時の CO₂ 排出量実質ゼロによる運行を実現します。詳細は下記のとおりです。

記

1. EV バスの運行について

（1）CO₂ の排出について（再エネの利用）

現在、臨港バスにおいて路線バスで使用している車両の多くはディーゼルエンジンバスであり、走行時 CO₂ を含む排気ガスを排出しているのが現状です。そこで、CO₂ 排出量削減を目指し EV バスを導入します。

さらに、EV バスの充電に使用する電気が火力発電等で発電された電気の場合、発電時に CO₂ が排出されますが、今回、再生可能エネルギー※¹ 由来の CO₂ フリー電気である「はまっこ電気」を使用することで、EV バスの走行による CO₂ 排出量を実質的に“ゼロ”するとともに、再エネの地産地消を実現します。

※電力供給のイメージについては裏面をご覧ください。



▲EV バス車両



▲充電風景

（2）運行開始日

2025 年 2 月（予定）

（3）導入営業所および導入台数

導入営業所：鶴見営業所（横浜市鶴見区駒岡 1-28-9）

導入台数：4 台

（4）運行路線

主に鶴見駅西口を発着する路線

（鶴 02 鶴見駅西口～新横浜駅前、鶴 03 鶴見駅西口～新綱島駅、鶴 04 鶴見駅西口～新川崎交通広場、鶴 07 鶴見駅西口～三ツ池公園～駒岡車庫 ほか）

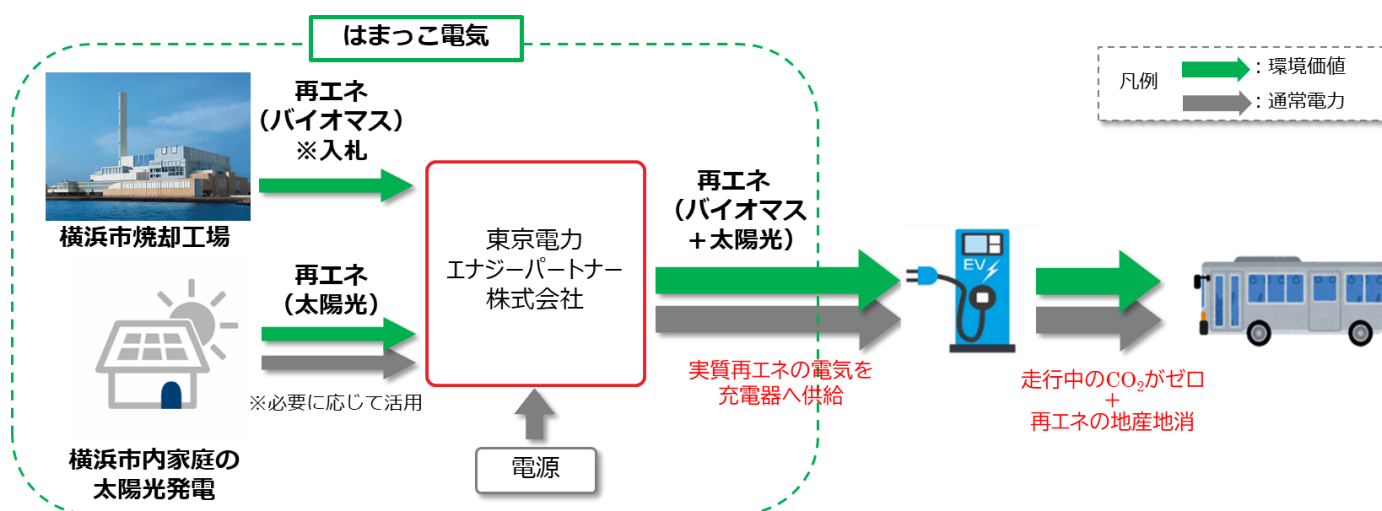
（５）災害時の活用

今後、外部給電器の導入を予定しており、これにより非常時や災害時には EV バスから電気を取り出し営業所等の一時的な電源確保が可能となります。

２．はまっこ電気について

- ・横浜市の資源循環局焼却工場から発生する「環境価値」※²（非 FIT 非化石証書※³）と通常電力を組み合わせた実質 CO₂ フリー電力を市内需要家に供給
- ・焼却工場の環境価値が不足した場合は、横浜市内の卒 FIT※⁴ 由来の環境価値を充当

【電力供給イメージ】



※ 1 再生可能エネルギー

太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスといった自然界に存在し CO₂ など温室効果ガスを排出しないクリーンなエネルギーの総称

※ 2 環境価値

非化石電源（再エネ等）から発電された電気が持つ非化石としての価値で、電気そのものの価値と切り離して取引が可能

※ 3 非 FIT 非化石証書

再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する「固定価格買取制度（FIT 制度）」の、適用外の電源である「非 FIT 電源」由来の環境価値を証書化したもの

※ 4 卒 FIT

FIT 制度の買取期間を満了する（FIT を卒業する）こと

以 上